

[横浜市陶芸センター]
平成 28 年度業務報告及び収支決算
[シンリュウ株式会社]

* 文中の事業欄において、 ●：主催事業 ○：共催事業
* 文中の達成指標、達成状況欄において、 □：定量的指標 ■：定性的指標

1 施設の概要

施設名	横浜市陶芸センター
所在地	横浜市中区本牧三之谷 59-3
構造・規模	木造平屋建て及び登り窯 1 棟(別棟)
敷地・延床面積	延床面積 396 m ² 、 登り窯延床面積 60 m ²
開館日	平成 5 年 8 月

2 指定管理者

法人名	シンリュウ 株式会社
所在地	埼玉県朝霞市上内間木 514-2
代表者	小澤 忠
設立年月日	平成 2 年 4 月 26 日
指定期間	平成 28 年 4 月 1 日～平成 33 年 3 月 31 日

3 指定管理に係る業務総括

(1) 基本的な方針の総括

【指定管理中の使命】

横浜市陶芸センターの使命は、横浜市における作陶活動の拠点施設として、広く市民が陶芸に親しむ機会を提供するとともに、市民の作陶技術向上の支援を行うことにより、陶芸の普及を図ることであり加えて、陶芸を通じて市民文化の振興及び文化芸術が持つ創造性を活かした魅力あるまちづくりに寄与することあります。この使命を達成するため、以下五つの方針のもと運営を行いました。

①陶芸の普及と市民の作陶技術向上を支援する

1 日体験教室、親子陶芸教室、手びねり教室、電動ロクロ教室、自由作陶教室を開講し、陶芸の普及と市民の作陶技術向上を支援する取組を進めました。

②市民の主体的な作陶活動を支援する。

電動ロクロ水挽き徹底教室、絵付け教室、特定のやきもの作り教室、招待作家講座、大物焼成講座を開講し、市民の主体的な作陶活動を支援しました。

③市内の公益的作陶活動を支援する。

陶芸指導者研修講座、随時開催される団体教室を開講し、市民の公益的作陶活動を支援するよう努めました。

④陶芸と市民とを結びつける場とする。

陶芸と市民を結びつける場として、陶芸祭での手びねり・楽焼絵付け体験、電動ロクロ体験、横浜アマチュア陶芸展入選作品展とセンター利用者の作陶展の開催、各種メディアを活用した情報の発信などに努めました。

⑤施設の管理及び市民の円滑な施設利用の促進。

耐震工事期間と並行して各種設備の修繕やメンテナンス、天井の除塵、窯業機械設備等の入替え等作陶環境の改善に取り組み、講座再開に向けて準備を進め、作陶環境の改善に努めました。

【業務取組みの基本的な考え方】

①利用者へのサービスを、もっと向上する。

施設利用者からのアンケートや要望、各スタッフからの提言などを考慮しながら利用者がより使いやすい作陶環境づくりに取り組みました。

②陶芸知識の基地化を、もっと推進する。

陶芸ライブラリーには新図書を追加し、利用者、来館者を問わず利用できる貸し出し制度を引き続き整備しました。また、新規講座、招待作家講座などの開講により初心者、施設利用者、スタッフが陶芸技法の知識を共有できる様、ディスカッションによる知識の共有、伝達拡散に努めました。

③地域にもっと開放する。

陶芸祭での町内商店会・三渓園・横浜緑の協会との共催企画や、開館時間中の見学者への説明、電話やホームページからの陶芸に関する質問・相談に対応し、開かれた陶芸施設作りを推進しました。

④環境を、もっと意識する。

本牧市民公園の中に位置し、三渓園が隣接する静かな環境の中での作陶活動をより多くの人に紹介するために、建物と登り窯の映像をホームページにアップし、新規利用者の拡大に努めました。

(2) 28年度の業務の方針及び達成目標の総括

【全体業務についての総括】

・平成28年度は耐震工事に伴う休館により8ヶ月間のみの開館となり、予定自主事業14講座と貸室利用は4ヶ月間中止となりましたが、新規の季節の飾り物講座2回と、開講を望まれていた小山耕一氏の招待作家講座1回は開講することができました。招待作家講座に於いては、講座受講者、センター講師、スタッフがルーシー・リーの陶芸技法に触れることができ興味の尽きない講座となりました。新規の季節の飾り物一日体験講座は、器以外の作陶に興味のある初心者のための陶芸入門講座として、他の初級講座受講への興味を喚起しました。H28年度の初級中級講座は今までのように多種釉薬を使用する作品を制作するだけではなく、『器の用途に合わせたかたち』や、素材のバリエーションを増やすような講座を心がけました。また、1日体験や親子陶芸教室では小中高生向けに、手びねりや電動ロクロでの作陶の映像を講座教室で講座待ち時間に上映し作陶活動への興味を喚起するよう努めました。また、小中高生向け作陶イラストガイダンスなども配布しました。耐震工事期間を利用し、例年の懸案である『不足している収納・作陶スペース』を確保するために釉薬の保管スペースと小道具の保管ロッカーの移動、作陶台の修理と作陶スペースの拡張、備品倉庫の整理と館内外の収納スペースのレイアウトを変更しました。また、設備の経年劣化に備え窯業設備の毎月機能点検と電気設備の点検を適時行いました。

①事業の総括

・体験型教室は電動ロクロ 1 日体験講座を昨年から引き続き開講し、使用する釉薬をチタン失透釉からカフェブラウン釉に変更し、バリエーションを増やしました。また、新規に季節の飾り物一日体験教室を開講し継続受講希望者も多数ありました。基礎教室は作品の数量だけではなく、多様な器にチャレンジする講座となりました。専門技能教室での特定のやきものの教室では、人気が高いサヤ鉢炭化焼成と練り込み技法講座を復活させましたが、企画のマンネリ化もあり受講者数の減少もみられました。公益的作陶支援教室のなかの指導者研修講座と団体教室は募集に対しての参加者が年々減少傾向にあり課題を残すこととなりました。

・本牧市民公園・三渓園・近隣地区町内会との連携により陶芸祭及び本牧公園秋祭りを共催しました。また、『全国公募横浜アマチュア陶芸展』も同時開催し、今回の公募テーマは『暮らしのうつわ』部門と新たに『生命力（いきもの）』をテーマに変更し、やきもので生命力を表現してもらい、入賞作品は全国展開の陶芸専門雑誌に掲載発表しました。陶芸祭のバザーでは例年センター主導でのお任せバザーでしたが、センター利用者自主グループに積極的に参加してもらい、ブースも 5 グループ出品し盛況の内に閉幕しました。

②運営の総括

- ・耐震工事期間が 115 日間でしたが、年間 241 日間開館し、利用促進に努めました。
- ・貸室及び自主事業の利用者数は、耐震工事の為昨年度目標である 19,000 人は達成できませんでしたが、合わせて 11,277 人となり前年比 61%となりました。
- ・今年度は隔年開催の『全国公募横浜アマチュア陶芸展』が開催され応募総数 140 人、作品数 175 点の応募がありました。前回に比べると応募作品数は 30%減となりこれからの課題となりました。

陶芸祭の 4 日間入場者数は延べ 1,729 人で、陶芸センター利用者の自主グループによるバザーとアマチュア陶芸展作品展示、利用者の作品展が好評でした。毎年 11 月開催の陶芸祭は地域の恒例の行事として近隣地域に定着しています。また、陶芸祭、陶芸センター受講ガイダンス、実演映像等を DVD 化し、ホームページにアップし知名度と陶芸知識の拡散と拡大に努めました。小山耕一先生の『ルーシー・リーの技法』がテーマの招待作家講座は、横浜市在住以外の申込みや、問い合わせも多数あり人気の高い講座となり、抽選による受講となりました。

③管理の総括

- ・耐震補強工事の休館を活用して、施設内天井、梁、空調機用冷媒保護管、照明の除塵作業を行い、陶芸センター開館以来の懸案事項である蓄積した粘土粉末を含む埃を撤去することが出来ました。
- ・空調機定期保守点検と定期清掃、防災用設備保守点検は耐震工事により年 2 回から 1 回の点検となりましたが、設備機能点検等を確実に行い、施設、設備、備品の適切な管理ができました。
- ・施設内の劣化蛍光管の交換と、空調機ドレンポンプの委託交換、トイレ床劣化ワックスの除去、中庭屋根波板の交換、貸室シンク収納棚の交換、排水栓及び側溝の泥の排出計量を行いました。

④その他の総括

- ・日報、月報、業務計画書、業務報告書の作成、業務評価、その他指定管理者業務について、適切に対応し、また、横浜市との連絡調整を密にし、個人情報の保護など、円滑な業務遂行に努めました。

4 業務の取組と達成状況

※28年度は工事による休館があったため、定量的指標については、休館期間を除外して記載。

(1) 事業について

ア 陶芸の普及と市民の作陶技術向上の支援について

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
●体験型教室の開催	<p>定量的指標については、休館期間を除外して記載。</p> <p>□一日体験教室を年6回開催する。目標利用者数96人 (当初目標:年11回、目標利用者数180人)</p> <p>□一日電動ロクロ体験教室を年間6回開催する。目標利用者数78人 (当初目標:年10回、目標利用者数:130人)</p> <p>□一日体験季節の焼き物講座を年2回開催する。目標利用者数20人 (当初目標:年4回、目標利用者数:40人)</p> <p>□親子陶芸教室を年間17日開催する。目標利用者数650人</p> <p>□陶芸祭期間中、手びねり体験、ロクロ体験、楽焼の教室を4日開催する。目標利用者数140人</p> <p>□手びねり初級教室を年間2回、16日開催する。 目標利用者数266人 (当初目標:年間3回24日間開催、目標利用者数:400人)</p>	<p>■一日体験の中に6回の手びねり・絵付け体験講座実施</p> <p>■6回の電動ロクロ講座実施</p> <p>■2回の季節の焼き物講座を実施</p> <p>■親子陶芸教室を16日間実施</p> <p>■陶芸祭期間中3講座を4日間実施</p> <p>□手びねり初級教室を実施</p>	<p>●一日体験教室の開催 □手びねり6回(134人) □電動ロクロ6回(79人) □季節の焼き物講座2回(27人)</p> <p>●親子陶芸教室の開催 □開催回数16日間 □利用者数552人 8月19日(火)は各小学校の終業式と同日だった為、応募がなく、16日間のみの実施となりました。</p> <p>●陶芸祭期間中に体験教室を3講座開催 □開催回数4回4日 □利用者数148人</p> <p>●手びねり初級教室開催 □開催回数2回16日 □利用者数168人</p>
●基礎教室の開催			

●自律型教室の開催	<p>□手びねり中級教室を年間2回、16日開催する。 目標利用者数332人 (当初目標:年間3回24日間開催、目標利用者数:500人)</p> <p>□電動ロクロ初級教室を年間2回、14日開催する。 目標利用者数232人 (当初目標:年間3回21日間開催、目標利用者数:350人)</p> <p>□電動ロクロ中級教室を年間1回、7日開催する。 目標利用者数116人 (当初目標:年間3回21日間開催、目標利用者数:350人)</p> <p>□自由作陶教室を年間220日開催。目標利用者数4,853人 (当初目標:年間350開催、目標利用者数:7,700人)</p> <p>□第2自由作陶教室を年間29日開催。目標利用者数819人 (当初目標:年間46日開催、目標利用者数:1,300人)</p>	<p>□手びねり中級教室を実施</p> <p>□電動ロクロ初級教室を実施</p> <p>□電動ロクロ中級教室を実施</p> <p>□自由作陶教室は220日間、第2自由作陶教室は29日間のみの開講、</p>	<p>●手びねり中級教室開催 □開催回数 2回 16日 □利用者数 311人</p> <p>●電動ロクロ初級教室の開催 □開催回数 2回 14日 □利用者数 303人</p> <p>●電動ロクロ中級教室の開催 □開催回数 1回 7日 □利用者数 126人</p> <p>●自由作陶教室の開催 □開催日数 220日 □利用者数 4,553人</p> <p>●第2自由作陶教室開催 □開催日数 29日 □利用者数 785人</p>
●気軽に陶芸を体験してもらう取組	<p>■初めての人でも気軽に陶芸体験ができる教室を開講する。</p> <p>□1日体験ロクロ、手びねり、絵付け、季節のやきもの教室を開講。例年使用する釉薬の種類を変えて開講しました。</p> <p>□陶芸祭期間中予約無しでの手びねり体験、ロクロ体験、楽焼の教室を4日間開催</p> <p>■紙媒体やWEBからの発信 新聞・タウンニュース・市営バス内の無料パンフレット等への掲載や陶芸関連書籍、陶芸関連WEBページをアップする。</p>	<p>■1日体験ロクロ、手びねり、絵付け、季節のやきもの教室を開講。例年使用する釉薬の種類を変えて開講しました。</p> <p>□陶芸祭期間中の予約なしでの体験講座を3教室実施した。</p> <p>■紙媒体やWEBからの発信 神奈川新聞、全国公募展ガイド、広報よこはま、ヨコハマアートナビ、サンケイリビングWeb版、陶芸ネットコム、横浜カレンダー『陶釉』、陶芸ネットコム</p>	<p>■実施 新釉薬カフェブラウン釉を使用し好評でした。</p> <p>●陶芸祭期間中の予約なしでの手びねり体験 □開催日数 4日間</p> <p>■紙媒体やWEBからの発信 を実施した。紙媒体では広報よこはま、Web関係では、ホームページからの申込みが多数を占めた。陶芸関連Webサイトには、バナーをアップした。</p>

	<p>■外国人向けチラシ等の作成</p> <p>一日体験・自由作陶教室・貸室等在留外国人向けに英語版のチラシ・パンフレットを作成する。</p> <p>■障害者の方、ハンディキャップのある方の参加しやすい環境改修の提案</p> <p>ハンディキャップのある方が作陶しやすいスペースを確保するために、作陶台周辺や釉掛けスペースのレイアウト改善に向けて検討する。</p> <p>■映像による紹介</p>	<p>陶芸広場、シンリュウホームページ</p> <p>■外国人向けチラシ等の作成</p> <p>1日体験は3ヶ月ごとに年4回、自律型教室は年間のチラシをそれぞれ製作。英語版注意書『作品は最後まで自分で作りましょう』を作成</p> <p>■障害者の方、ハンディキャップのある方の参加しやすい環境改修の提案</p> <p>車椅子の方の利用時には、スペースを確保する等対応した。</p> <p>■一日体験などの講座受講者の方に、講座受講前にわかりやすく作陶の流れを伝えるために、作陶の様子の動画を作成した。動画は施設内に設置したテレビで放映するほか、ウェブサイトでも閲覧できるようにした。</p>	<p>■外国人向けチラシ等により1日体験の受講者が増えましたが、英語版パンフレットは検討継続課題となり、制作しませんでした。</p> <p>■バリアフリーに向けての作陶環境の改善について検討を行った。釉掛け後の作品を置くスペースとして、身近で作業しやすい可動式の二段式小型カートを使用できるか検討中。</p> <p>■一日体験作陶ガイドの映像化を行った。</p> <p>外国人、子供、作陶がまったく初めての利用者に好評でした。</p>
⑤次世代育成の取組	<p>⑤■小学校低学年を対象とした焼き物に関する解説資料を親子陶芸教室などで資料として配布し、次世代の育成に取り組む。</p> <p>■手びねりや電動ロクロでの作陶方法等を映像でわかりやすく紹介する。</p>	<p>⑤■小学校低学年を対象とした焼き物に関する解説資料の作成、配布。</p> <p>『作品が出来上がるまで』を漢字にフリガナを入れ漫画調に擬音入りのイラストで表現し配布しました。</p> <p>■「映像による紹介」で作成した動画を子どもたちの事業でも活用した。</p>	<p>⑤■小学校低学年を対象とした焼き物に関する解説資料の作成、配布。</p> <p>センターに来館する子どもをメインに、親子、希望者に配布しました。</p> <p>■テレビ番組で放映している短い作陶シーンよりもじっくり見られて解りやすいという意見もあり、皆さん集中してご覧になられていきました。</p>

イ 市民の主体的な作陶活動の支援について

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
①専門技能習得講座として多くのテーマの講座を企画・実施	①	①専門技能習得教室は水挽き徹底と絵付け教室が年間各1回の開講、特定のやきものの講座は年2回のみとなりました。 □利用者数 181人 (昨年度 235人)	①
・電動ロクロ水挽き徹底教室	□電動ロクロ水挽き徹底教室を年間1回、4日開催する。 目標利用者数 45人 (当初目標:年間2回、4日開催、目標利用者数90人)	酸化焼成の他大物焼成、楽焼焼成、強還元のサヤ鉢焼成、灯油窯の還元焼成を実施しました。上絵・染付け講座は耐震工事で中止になりました。	●電動ロクロ水挽き徹底教室 □開催日数 1回 4日 □利用者数 58人
・絵付け教室	□絵付け教室を年間1回、3日開催する。 目標利用者数 30人 (当初目標:年間2回、6日開催、目標利用者数60人)	招待作家講座は前期1回のみの開講となりましたが、人気作家故ルーシー・リーの釉薬の調合と作陶技法の再現による人気講座で多数の応募(定員24人に対し応募者38人)があり抽選となりました。	●絵付け教室の開催 □開催日数 1回 3日 □利用者数 32人
・特定のやきものの教室	□特定のやきもの作り教室を年間2回、8日開催する。 目標利用者数 240人 (当初目標:年間3回、12日開催、目標利用者数360人)	●特定の焼物作り開催 □練り込み 43人 □備前サヤ鉢焼成 48人	
・還元焼成講座	□還元焼成講座を自由教室・貸室利用者を対象に隨時開催 目標利用者数 400人 (当初目標:目標利用者数800人)	●還元焼成講座受講者 利用者数 524人 (貸室172人、自由作陶教室352人)	
・大物焼成講座	□大物焼成講座を自由教室・貸室利用者を対象に定員限定で毎月開催 目標利用者数 12人 (当初目標:目標利用者数24人)	□大物焼成講座 12人	
・楽焼焼成講座、サヤ鉢焼成講座等	□上絵付け焼成、サヤ鉢焼成、楽焼焼成など各種の焼成も特定のやきものの講座や陶芸祭、別途企画講座に於いて開催する。	□上絵付け焼成、サヤ鉢焼成、楽焼焼成などの焼成を各種講座で開催	

・招待作家講座 ・穴窯焼成講座	<p>□招待作家講座（上級）を年1回開催する。 目標利用者数 24人 (当初目標：年2回、目標利用者数48人)</p> <p>□穴窯焼成講座は隔年開催を基本とし、29年度開催に向け準備を進める。</p>		<p>□招待作家講座 講師 小山耕一氏 ルーシー・リーの技法 □利用者数 24人</p>
②作品発表の機会の提供 陶芸祭での作陶展、ホームページで実施するネット特別賞、「全国公募・横浜アマチュア陶芸展」による全国規模の作品発表の場の提供	<p>②□利用者の作品発表の場として、陶芸祭時に作陶展を年1回開催し、ホームページ上のネット特別賞発表や、隔年開催の「全国公募・横浜アマチュア陶芸展」入賞者の作品を陶芸祭で展示、また、陶芸雑誌上で掲載発表をする。</p>	<p>②毎年恒例の陶芸祭の催し物として利用者の作陶展と『全国公募横浜アマチュア陶芸展』開催しました。</p>	<p>②●利用者作品発表の場 □作陶出品者 84人 (対前年比 59%) (昨年度 142人)</p> <p>□横浜アマチュア陶芸展応募人数 140人 (対前回比 73%) (前回 192人)</p> <p>作品数 175点 (対前回比 70%) (前回 250点)</p>
③新講座、実験的講座の開講	<p>③□一日体験教室の中に初心者でも参加しやすい季節の焼き物講座を年間2回開催する（再掲） ・ハローウィン（9月） ・クリスマスオーナメント（11月） 目標利用者数 20人</p>	<p>③当初計画していた来年の干支作り（12月）、雛人形作り（2月）は、休館のため実施せず。</p>	<p>③□季節の焼き物講座 2日利用者数（27人） 他の季節のやきもの講座や、次年度の受講希望者が多数いらっしゃいました。</p>

ウ 市内の公益的作陶活動に対する支援について

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
①陶芸指導者対象の研修講座の開催	<p>①●□小中高校や養護学校の陶芸担当指導者のための研修講座を年1回開催する。 目標利用者数 20人</p>	<p>①今年度は、1日の講座の開催となりました。陶芸指導のアドバイスや実技面での問題の解決方法等、充実した講座となりました。</p>	<p>①●指導者研修講座 □開催回数 1回 1日 □利用者数 12人 その他、養成講座のDMを年1回実施。講座紹介なども併せて送付。</p>

<p>②公益的作陶活動に対する情報提供や相談対応等、陶芸知識の発信による基地化</p>	<p>②■小中高校・福祉施設に対し研修講座の案内のほか、作陶活動に必要な情報や質問を聞き取り、研修や電話相談等での陶芸知識の発信に努める。</p> <p>□学童保育を中心に年1回DMを発送し、団体教室の案内のほか陶芸センター紹介の情報を提供し、陶芸活動の底辺拡大を図る。</p> <p>■学校をはじめ作陶活動を行っている団体、個人からの、陶芸技術、窯業機械の取り扱い方、メンテナンスの相談、および出張教室等の要望があった場合は積極的に対応し、陶芸知識の基地化に努める。</p>	<p>②■電話による応対と直接センター来館による相談</p> <p>□学童保育に対し団体教室の案内DMを発送しました。</p> <p>■市内小学校、陶芸工房個人陶芸家からの質問や相談に対応しました。</p>	<p>②■窯業機械 1件 道具の使用方法 1件 陶芸材料 2件 陶芸技法 1件 バリアフリー 1件 □団体教室のDM、 □年1回の実施 □石膏型について 1件 □ヒーター線について 1件 □電気炉の電源 1件</p> <p>●団体教室の開催 □開催回数 7回 □利用者数 177人</p>
<p>③出張教室・講座等の対応等、陶芸知識の発信による基地化</p>	<p>③■出張教室での対応の難しいケース（作品の種類・重量・既存の電気炉の有無・経費）は、陶芸センターでの講座受入が可能か判断し、積極的に対応する。</p> <p>□団体体験教室を年間5件 240人の目標利用者を目指す。 (当初目標：目標件数年10件、目標利用者数400人)</p>	<p>③学童クラブ、子ども会、保育所、青年学級などの団体の利用がありましたが、8月22日の台風接近の影響で2団体がキャンセルされました。</p>	

エ 陶芸と市民及び来街者を結びつける場づくりについて

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
<p>①施設の象徴としての登り窯の活用</p>	<p>①■登り窯を、柵外からのみの見学用施設として活用し、構造・使用方法の解説文など掲示を企画する。</p> <p>■登り窯を施設の象徴的扱いとし、印刷物等で施設紹介する際には、登り窯の写真も掲載する。</p>	<p>①見学用施設として活用する他、公園利用者に対し、登り窯の説明などをして陶芸に対する興味を喚起しました。</p> <p>動画による陶芸センター講座DVDの中に映像で紹介し、ホームページにアップしました。</p>	<p>①広告媒体には登り窯を含めた写真を掲載し、陶芸施設としてのイメージアップに役立たせました。</p> <p>登り窯説明文掲示は次年度以降に実施することとしました。</p>

<p>②近隣地域と連携した取組を行うための企画検討</p>	<p>②■毎年開催される陶芸祭に本牧市民公園・三渓園・近隣地域商店会の出展など、陶芸祭の規模を拡大し周知する為の企画を検討する。</p>	<p>②陶芸祭でセンター利用者の陶芸展とアマチュア陶芸展入選作品展を開催し、体験教室や、三渓園や本牧市民公園との共催企画等を実施。三渓園との共催企画は、センターで抹茶茶碗を作り、三渓園でお茶の御点前をする恒例の講座を開講しました。</p>	<p>②陶芸祭の各種企画で、陶芸に親しむ機会を提供する事が出来ました。</p>
<p>③陶芸祭で初めて陶芸にふれる来場者のための企画実施</p>	<p>③□陶芸祭での予約無しで出来る「手びねり・電動ロクロ・下絵付け・楽焼」体験の他、手びねり抹茶茶碗による御点前、利用者の展示作品の人気投票によるお楽しみ抽選会、陶芸作品の展示即売会・バザーなど興味を喚起する企画を実施する。</p>	<p>③陶芸祭来場者数は4日間で1,729名となりました。 同時開催として『全国公募横浜アマチュア陶芸展』入賞作品展示会も開催。</p>	<p>③●陶芸祭関連講座（再掲） □開催回数各講座4回 □手びねり体験講座 □利用者数 58人 □電動ロクロ体験講座 □利用者数 50人 □楽焼き体験講座 □利用者数 40人 ○三渓園入場割引企画 □利用者数 46人</p>
<p>④施設利用促進のための広報・宣伝活動、ホームページや紙媒体の制作の充実</p>	<p>④□講座スケジュールガイドを年1回作成し、PRボックスにて配布するほか、広報ツールとして活用する。(講座スケジュールガイド作成 当初目標年2回) ■すべての講座について募集チラシを作成、館内にて配布する。 □陶芸祭チラシを年1回作成し、PRボックスでの配布、新聞折り込み広告、DM等で活用する。</p>	<p>④□講座スケジュールガイドを年1回作成、施設案内パンフレットは既存在庫を使用。 PRボックスへの配架は、PRボックスのチラシ回収ルール取扱変更のため、費用対効果を鑑み今年度、配架を取りやめ、根岸駅のみの配架としましたが、施設の利用促進のため、計画通り広報、宣伝活動を行いました。 ■開講されるすべての講座についての募集チラシ作成 □陶芸祭チラシ作成し、新聞折り込み広告を行いました。DMでも活用しました。</p>	<p>④□年間講座スケジュールガイドを年1回作成。 □PRボックスは根岸駅にのみ配架 1回 □陶芸祭チラシ作成 年1回、 □新聞折込広告の実施年1回 □DMの実施 年2回 学童、指導者研修</p>

	<p>■市の刊行物、フリーペーパー、一般紙誌、新聞イベント情報、陶芸誌等のメディアへの情報提供、記事掲載を推進する。</p> <p>□ホームページ講座案内の年度切り替えのほか、新着情報欄を月1回以上更新し、最新の情報を案内する。</p>	<p>■各種媒体に記事を掲載しました。</p> <p>□ホームページの新着情報欄の更新、耐震工事のお知らせ、陶芸祭・アマチュア陶芸祭についての情報案内、陶芸作品ギャラリーによる陶芸展出品作品の写真掲載等、活用を図りホームページに陶芸センター講座情報他の動画をアップしました。</p>	<p>■記事掲載実績 「陶釉」、「陶芸ネットコムm」、神奈川新聞「iバザール」、サンケイリビングweb版</p> <p>□新着情報の更新年16回 ■28年陶芸ライブラリーの紹介 ■陶芸祭作品、全国公募展入選作品の掲載 ■耐震工事期間のおしらせ ■陶芸センター情報案内動画のアップ</p> <p>⑤利用者に支障のないよう「一般見学者の団体」も受け入れ、陶芸に関する質問に積極的に対応し、映像・陶芸ライブラリーによる情報の発信を行う。</p> <p>□電話やホームページで陶芸全般に関するいろいろな質問に答え対応する。</p>
⑤一般見学者への質問対応や陶芸ライブラリー、映像等による詳細な情報、電話やホームページ等を通じての相談等、情報発信	<p>⑤■利用者に支障のないよう「一般見学者の団体」も受け入れ、陶芸に関する質問に積極的に対応し、映像・陶芸ライブラリーによる情報の発信を行う。</p> <p>□電話やホームページで陶芸全般に関するいろいろな質問に答え対応する。</p>	<p>⑤利用者に支障のない範囲で「一般見学者の団体」の受け入れを行い、陶芸ライブラリーを充実させ陶芸知識、情報の基地化を進めました。</p> <p>□市内小学校より粘土粒子の違いと可塑性、耐火度についての質問に対応。</p>	<p>⑤□陶芸ライブラリー貸出利用者数 26人、37冊 □図書の補充 26冊 図書は、貸出利用だけでなく、作陶活動の参考にするため、施設内で利用者に閲覧されています。 □一日平均閲覧者数5人 □大物制作用荒土を推奨</p>

オ 陶芸センターに関する情報提供及び広報・プロモーション

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
①Webサイトによる施設案内	<p>①■ホームページ以外にヨコハマアートナビや横浜カレンダーなどのWebサイトに講座スケジュールを載せてもらうほか、陶芸関係のサイトにリンクを積極的に貼れるよう調整する。</p> <p>■ホームページ上のギャラリーを充実させ、陶芸祭人気作品、全国公募展作品のほか、招待作家講座</p>	<p>①■ヨコハマアートナビや横浜カレンダーなどのWebサイトに講座情報を掲載しました。</p> <p>作陶経験者の個人ブログからのリンク貼りの調整など</p> <p>■陶芸作品ギャラリーによる陶芸展出品作品の写真掲載他、陶芸センター講座情報</p>	<p>①■陶芸センターの施設ウェブサイト以外のサイトに講座情報の掲載実施 サンケイリビングWeb版 ヨコハマアートナビ 横浜カレンダー ■陶芸祭作品、全国公募展入選作品の掲載</p>

	<p>の風景をアップする。</p> <p>②陶芸関係のサイト等を活用した広報</p> <p>③陶芸センターの知名度アップ</p> <p>■陶芸フェスティバルでの新規の公募テーマを企画する。</p> <p>■公募展入選作品の陶芸関連誌掲載や、メディア関係の取材・撮影には積極的に対応する。</p> <p>④外国の方向けの情報発信方法の検討</p>	<p>他の動画をアップしました。</p> <p>②知名度と集客率を高めるために、習い事サイトに情報提供を行いました。</p> <p>③■陶芸祭用のチラシ及びDMを4万枚印刷配布し、新聞折込広告の他記事掲載のための広報活動をおこないました。本牧根岸地区連合町内会長様、大里町、三之谷各町内会にチラシの掲示と回覧を依頼し協力していただきました。</p> <p>□公募展では、全国から175点の応募がありました。</p> <p>■新規公募テーマを新たに『生命力（いきもの）』をテーマにしたやきもの部門を開設</p> <p>■公募作品について、全国情報誌『月間公募ガイド』『陶釉』掲載。</p> <p>④■日本に在留されていて、作陶を希望される外国の方のために、一日体験や他の講座受付のための英語版のチラシや、パンフレットを陶芸センターに常に設置する。</p> <p>■作陶経験が多少ある方用に、英語で受講できる自由作陶教室をお知らせする。</p>	<p>□陶芸センター情報案内動画のアップ</p> <p>②■習い事サイトに情報提供 陶芸ネットコム マピオン、エキテン じやらんnet</p> <p>③本牧地区連合町内会に回覧用・掲示用チラシ310部配布。 陶芸祭関連記事は陶芸関連専門誌『陶釉』、神奈川新聞『iバザール』サンケイリビングweb版、広報よこはま、ヨコハマアートナビオ、横浜カレンダーweb版に掲載を依頼しました。</p> <p>■実施</p> <p>■取材撮影 年0回</p> <p>■公募作品、掲載</p> <p>④■1日体験講座・貸室・自由作陶教室、作陶時の注意事項を作成、設置。</p> <p>■実施 英語対応可能な講師が担当している、毎週木曜日（午前・午後）を受講希望者に推奨しました。</p>
--	--	--	--

(2) 運営について

ア 作陶活動のための施設の提供について

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]								
①適切な施設開館及び施設の貸し出し	<p>①□開館について</p> <table border="1"> <tr> <td>開館日数</td><td>241 日 (当初 356 日 予定。12 月 1 日から耐震補 強工事のた め、121 日間 休館)</td></tr> <tr> <td>開館時間</td><td>9 時～17 時</td></tr> </table> <p>□休館日 9 日（休館日：清掃・空調機点検 2 日、電気点検 1 日、年末年始 6 日）</p> <p>□開館時間、休館日については、館内掲示やホームページ等で周知を図る。</p>	開館日数	241 日 (当初 356 日 予定。12 月 1 日から耐震補 強工事のた め、121 日間 休館)	開館時間	9 時～17 時	<p>①241 日間開館しました。 耐震工事期間は 121 日間 (内、年末年始 6 日含む)、定期設備点検、電機点検で 3 日間となりました。</p>	<p>①□開館日数 241 日 □休館日 124 日 (耐震工事は 121 日間) □館内掲示やホームページ等で周知</p>				
開館日数	241 日 (当初 356 日 予定。12 月 1 日から耐震補 強工事のた め、121 日間 休館)										
開館時間	9 時～17 時										
②公園条例に基づいた利用料金の徴収	<p>②□利用料金について</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>午前</th><th>午後</th><th>一日</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>陶芸成形室</td><td>500 円</td><td>500 円</td><td>1000 円</td></tr> </tbody> </table> <p>□焼成料(酸化焼成)は、焼成する前の粘土 100 g までごとに 100 円</p>		午前	午後	一日	陶芸成形室	500 円	500 円	1000 円	<p>②計画通り実行し、適切な料金設定と徴収を行いました。</p>	<p>②□陶芸成形室利用料金 午前 午後各 500 円 一日 1000 円 □酸化焼成料 100 g ごとに 100 円</p>
	午前	午後	一日								
陶芸成形室	500 円	500 円	1000 円								
③各種講座・新規利用者・貸室の利用率増赤のための工夫	<p>③□貸室稼働率 100%</p> <p>利用日数 241 日／開館日数 241 日 (当初目標：利用日数 351 日／開館日数 357 日)</p> <p>□貸室目標利用者数 3,100 人 (当初目標 5,400 人)</p>	<p>③耐震工事により利用日数は減少しましたが、自由な雰囲気の作陶機会と場の提供を行いました。</p>	<p>③□利用料状況等について (稼動率は、日にち単位) ・貸室 利用日数 241 日 開館日数 241 日 稼働率 100% 延利用者数 3,651 人</p>								

	<p>□貸室目標利用料収入（酸化焼成料含む） 2,807,200 円 (当初目標 4,200,000 円)</p> <p>④【！】休館期間中の利用者対応</p> <p>④■次年度事業・講座等必要な情報をホームページ等で利用者に提供</p>		<p>□貸室利用料収入（酸化焼成料含む） 2,949,700 円</p> <p>④■ウェブサイトに掲載。 12月1日からは、電話対応を実施。</p>
--	---	--	--

イ 利用者ニーズの把握及び利用者サービスの向上、アイデアノウハウの一層の活用

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
①アンケートを活用した利用者サービス向上と利用促進	<p>①□すべての講座の利用者に対し、アンケートを実施し、満足度及び利用者ニーズ等を把握し、今後の運営に反映させる。</p>	<p>①利用者アンケートによる利用者の声や、講師、アドバイザー、助手からの報告書等からの要望を把握し、新規追加講座の開催、陶芸ライブラリーの蔵書の補充、陶芸祭の開催等、利用者サービス向上に取り組みました。</p> <p>その他、利用者サービスの向上のため、貸出用小道具を配置し、必要な方に無償で貸出提供をしました。</p>	<p>①□すべての講座についてのアンケート調査実施（回収数、 557通）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室内容満足度 97% (満足 86% やや満足 11%) ・建物設備満足度 91% (満足 75% やや満足 16%) ・スタッフ満足度 97% (満足 88% やや満足 9%) 小道具の無料貸し出しを実施しました。
②利用者への配慮をしながら、可能な限り、施設見学を受け入れ	<p>②■利用者に支障のないよう「一般見学者の団体」も受け入れる。</p> <p>■穴窯焼成講座など離れた場所での企画講座の団体見学も受け入れる。</p>	<p>②■利用者の妨げにならない様配慮し、積極的に対応しました。</p> <p>■穴窯焼成講座は 28 年度実施しませんでした。</p>	<p>②■一般見学 1,972 人 (4/1～11/15までの期間)</p>
③施設スペースの有効利用方法等の検討	<p>③■講座教室内の釉薬保管スペースの中庭への移動による作陶台の有効活用</p> <p>■釉掛けスペースの改善と移設の検討</p>	<p>③■釉薬保管スペースを講座教室と作陶机下から中庭収納ロッカーに移動しました。</p> <p>■釉掛けスペースを中庭に一部移動することで、施設内の作陶スペースを生み出しました。</p>	<p>③■実施</p> <p>■スペース改善の実施</p>

	<p>■旧プロパン庫及びスチール収納庫の整理整頓による収納スペースの確保</p>	<p>■耐震補強工事に伴い、プロパン庫の整理、スチール小道具収納庫の移動等レイアウトの検討を行い、利用しやすい作陶スペースを確保しました。</p>	<p>■レイアウト等の検討による収納スペースの確保の実施</p>
--	--	---	----------------------------------

ウ 組織的な施設運営について

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]																								
①適切な人材の配置を実施	<p>①□人材の配置について</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th><th>人数</th><th>備考</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>センター長</td><td>1人</td><td>全体総括</td></tr> <tr> <td>所長</td><td>1人</td><td>事業・運営・管理業務責任者 個人情報管理責任者兼務</td></tr> <tr> <td>社員</td><td>2人</td><td>一部講師・ 貸室アドバイザー兼務</td></tr> <tr> <td>事務員</td><td>3人</td><td>ローテーション勤務</td></tr> <tr> <td>講師</td><td>9人</td><td>ローテーション勤務</td></tr> <tr> <td>貸室アドバイザリー</td><td>6人</td><td>一部講師、 助手兼務、 ローテーション勤務</td></tr> <tr> <td>助手</td><td>1人</td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>②□勤務体制について センター長は月3日その他隨時必要時、所長は週3日出勤。各講座指導部門では、講師、貸室アドバイザー、助手をローテー</p>	項目	人数	備考	センター長	1人	全体総括	所長	1人	事業・運営・管理業務責任者 個人情報管理責任者兼務	社員	2人	一部講師・ 貸室アドバイザー兼務	事務員	3人	ローテーション勤務	講師	9人	ローテーション勤務	貸室アドバイザリー	6人	一部講師、 助手兼務、 ローテーション勤務	助手	1人		<p>①□退職者が2名ありましたが、計画通り実行し、適切な人員配置と組織的な施設運営を実施しました。</p>	<p>①□次年度の新規スタッフの採用も年度内にまとまりました。</p>
項目	人数	備考																									
センター長	1人	全体総括																									
所長	1人	事業・運営・管理業務責任者 個人情報管理責任者兼務																									
社員	2人	一部講師・ 貸室アドバイザー兼務																									
事務員	3人	ローテーション勤務																									
講師	9人	ローテーション勤務																									
貸室アドバイザリー	6人	一部講師、 助手兼務、 ローテーション勤務																									
助手	1人																										
②適かつ効果的な勤務体制の確立		<p>②□通常の勤務体制を維持していくことができました。</p>	<p>②□職務分担に沿って、適切な職務遂行を達成しました。</p>																								

	<p>ション勤務とし、講座運営に支障のないようにする。事務部門では、毎日2人以上のローテーション勤務体制とする。</p> <p>職務分担表の作成、徹底により、効率的な業務遂行を行う。</p>		
--	---	--	--

エ 個人情報保護等、本市の重要施策を踏まえた取組

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
①個人情報保護・情報公開、人権尊重、環境への配慮、市内中小企業優先発注等の取組の実施	<p>①■法令、条例及び規則を遵守し、利用者の個人情報の取り扱いを適正に行い、事故のないように努める。</p> <p>■マイナンバーの個人情報漏えい防止の為、組織的・人的・物理的・技術的安全管理処置を講じる</p> <p>■情報公開規程にのっとり、情報開示請求等に対し、適切に対応する。</p> <p>■人権の尊重について、職員に対し人権に関する研修を年1回実施する。</p> <p>■近隣対策の実行について、管理・運営上の近隣への迷惑行為には充分留意し、対策を講じる。</p> <p>■横浜市中小企業振興基本条例に基づき、物品、修繕などの優先発注に努める。</p>	<p>①■計画通り、法令の遵守と個人情報保護への取り組みを行いました。</p> <p>■マイナンバーを本社総務部での一括管理により、安全管理処置を講じました。</p> <p>■情報開示請求等はありませんでした。</p> <p>■人権研修を実施しました。</p> <p>■近隣への配慮を行い、適宜、本牧市民公園との連絡調整を行いました。</p> <p>■可能な物品、修繕案件については、優先発注に努めました。</p>	<p>①■実施 個人情報の保管 施錠管理、研修 パスワードでの情報管理</p> <p>■実施 マイナンバーマニュアルの研修 本社での施錠管理</p> <p>■対応案件 0件</p> <p>■年1回実施</p> <p>■実施</p> <p>■実施</p>

(3) 施設管理について

ア 施設及び設備の維持保全及び管理、公園管理

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
①施設の安全・安心・快適環境維持と長寿命化対応の実施	<p>①■毎日の清掃業務と年1回の定期清掃を行う。(当初目標年2回)</p> <p>■管理標準チェックリストによる記録と快適環境維持</p>	<p>①■耐震補強工事のため、11月までの毎日の清掃と定期清掃は1回のみの実施となりました。安全かつ清潔な環境を保てるよう日常清掃の</p>	<p>①■委託清掃業者による毎日清掃と年1回の定期清掃、天井梁部分と照明器具の除塵実施</p>

	<p>■施設設備の日常点検と早めの自前小破修繕による高額修繕費支出の回避。</p>	<p>スタッフの意見を聞きながら行いました。</p> <p>■空調設備、給排水設備、消防設備、ガス設備等について毎日の使用の中で常に管理を徹底することにより、設備の適切な保守管理に勤めました。</p> <p>■施設の毎日の日常点検の他、小規模な修繕や補修等、適切な保守管理に努めました。</p> <p>横浜市による耐震補強工事、窯場一部天井の耐火塗装が行われました。</p>	<p>■空調、給排水、消防設備、ガス等、設備の日常管理、機能点検実施</p> <p>■毎日の日常点検 年1回の施設簡易点検報告。</p> <p>■小規模自前修繕の実施。修繕実績は「(3) イ小破修繕の着実な実行について」に記載。</p>
②保守点検、備品管理、環境維持の実施	<p>②□空調機器定期保守点検を年1回行う。(当初目標年2回)</p> <p>□給排水設備点検を年1回行う。</p> <p>□電気設備点検を隨時行う。</p> <p>□消防設備点検を年1回行う。(当初目標年2回)</p> <p>□窯業機器・機械の機能点検を毎月、保守点検を年1回実施する</p> <p>□粘土や釉薬を直接下水に流さず、下洗い箱を設け一度沈殿させたうえ、上水だけを流すよう毎日の作業として徹底する。</p> <p>□排水溝、枠の掃除を年2回実施し、汚泥量を引き続き記録するとともに、適切に汚泥処理をする。</p>	<p>②□空調点検、消防設備点検排水枠の汚泥の排出は年1回となりました。排水関係では特に釉薬や汚泥のための下洗い箱による沈殿作業を徹底し、下水への流入防止に努め、汚泥量を記録し適切に汚泥処理をしました。</p> <p>横浜市によるエーカーテンの交換取付がありました。</p> <p>□電気窯、窯業機械類の毎月の機能点検を行いました。窯の定期保守点検は耐震工事の為次年度に変更されました。焼成管理表の作成により適切な焼成管理を行い、また横浜市により 25 kW と 15 kW の電気炉が新たに導入設置されました。</p>	<p>②□空調機定期点検年1回 □消防設備の点検1回 □排水溝、枠の清掃年1回 □陶芸窯機能点検の毎月の実施 □陶芸窯の年1回定期保守点検は次年度に実施 □焼成管理表の作成 □施設周りの草刈、屋根樋掃除を適宜実施</p>
③公園の管理区域内の環境維持、公園管理者との連絡調整	<p>③■建物周辺の美観維持のため、草刈・屋根の松葉清掃・草刈等適宜手入れをする。</p> <p>■本牧市民公園と、工事・修繕他</p>	<p>③本牧市民公園と適宜調整を行いました。</p> <p>■公園内車両通行許可証の</p>	

	による車両の出入りの連絡調整をする。	申請と講座開催案内看板の設置申請他	
--	--------------------	-------------------	--

イ 小破修繕の着実な実行について

[取組内容] ①小破修繕の取組	[達成指標] ①■毎日の見回り点検により、早めの直営修繕にとりかかり、高額修繕に至らない様、適切な維持管理を行う。 ■修繕用交換部品をメーカーより直接購入し自前修繕による工賃・修理費のコスト削減を図る。	[実施内容] ①■施設の毎日の日常点検により、早めの対応を行うことで、小規模な修繕や補修等、適切な保守管理に努めました。	[達成状況] ■小規模修繕の実施。 【修繕実績】 ・館内LEDライトへの交換 ・空調室内機ドレンポンプセンサーの交換 ・トイレ温水便座交換 ・トイレ床ワックス酸化皮膜の剥離除去作業・中庭屋根波板・貸室シンク棚交換 ・換気扇の交換 【陶芸窯修繕実績】 ・常圧土練機の分解清掃 ・8kW電気炉ヒーター交換
--------------------	---	---	--

ウ 事故予防及び緊急時の対応

[取組内容] ①事故防止体制・防犯、緊急時の対応・感染症対策等衛生管理の実施	[達成指標] ①□事故発生に備え緊急連絡網を整備し、横浜市へ現場対応・状況を報告する。AEDの操作研修を年2回行う。 ■陶芸センターの警備業務一覧（巡回警備・非常事態発生時の処置等）をスタッフ全員での共通業務として認識し行動する。 ■日常の見回り点検や、スタッフ、利用者からの危険箇所の指摘を事故防止体制に活かす。 ■感染症対策として液体消毒石鹼とアルコール設置による除菌対策をし、ノロウイルス対策として嘔吐物処理行程をマニュア	[実施内容] ①緊急時対応マニュアルに従って対応準備をしました。	[達成状況] ①□防災非難訓練時にAEDの使用説明 □災害用伝言ダイヤルを使った訓練の実施。 ■実施 ■実施 ■実施
---	--	-------------------------------------	---

	<p>ル化し、スタッフ全員で共有する。</p> <p>■ Dengue熱・ジカ熱の蚊対策として水溜りの除去や、野鳥の死骸発見時における保健所と横浜市への通報・連絡を徹底する。</p> <p>■ 施設の保安警備業務は警備会社に委託し、24時間警備を行う。 (機械警備)</p>	<p>■ 計画通りの、適切な保安警備業務を実施しました。耐震補強工事による休館にあたって、業者との調整を行いました。</p>	<p>■ 実施</p> <p>■ 委託警備業者による、24時間警備の実施</p>
--	---	--	--

エ 防災に対する取組

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
<p>①日常の取組、危機管理マニュアルの整備、防火・防災の取組、灾害備蓄等の実施</p>	<p>① ■ 防災に備え緊急連絡網を常備し、緊急時は横浜市へ現場対応・状況を報告する。</p> <p>□ スタッフ、利用者も含めた防災避難訓練を年2回実施する。</p> <p>■ 陶芸窯の焼成について、スタッフの安全教育、防火管理を徹底する。</p> <p>□ 防災用品を準備、備蓄し期限切れ食品等を年2回更新する。</p>	<p>① 計画通り、防災等への適切な対応ができました。非難訓練では、利用者の方にも協力してもらい、該当曜日全員参加で行い、AEDの取り扱い説明会も行われました。</p> <p>□ 飲料水と固形糖類を1回更新</p> <p>□ 防寒用断熱シートと医療包帯セットを追加購入、バッテリーを1回更新</p>	<p>① □ 非難訓練を年2回実施（9月、3月）</p> <p>・防災マニュアル、緊急連絡網の確認、徹底</p> <p>■ 陶芸窯焼成の安全マニュアル教育、防火管理の徹底、1年間無事故達成</p> <p>■ 緊急防災持出セット設置</p> <p>□ 飲料水、固形食品の備蓄更新年1回</p> <p>□ 防災用品の追加と更新年1回</p>

オ その他管理に関する事項

[取組内容]	[実施内容]	[達成状況]
<p>①廃棄物の抑制と適正な処理</p>	<p>① ■ 使用済みの粘土や釉薬は、出来る限り再生し、産業廃棄物を押さえる努力をしました。</p> <p>■ 最終的に再生できないものは、産業廃棄物として、横浜市のルート回収で適正に</p>	<p>② ■ 粘土釉薬の再生のため分別回収を毎日徹底</p> <p>■ 産業廃棄物の毎月管理ルート回収による適正な廃棄</p>

		廃棄処理し、管理状況を毎月欠かさずチェックしました。	
--	--	----------------------------	--

(4) 収支について

ア 適切な収支構造及び収支バランス

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
①適切な収支構造及び収支バランス	<p>①■収益の改善と固定経費の改善努力</p> <ul style="list-style-type: none"> ■陶芸材料の在庫管理と計画仕入れの努力 ■突然の高額修繕に備えた、日常点検による劣化箇所の把握 ■利用増加が見込まれる新規講座の企画 ■四半期表による収支の予測 	<p>①計画通り経費削減に努めました。光熱水費の削減にも取り組みました。</p> <p>全体として、耐震工事の休館の影響により事業費・事務費共に減少となりました。</p>	<p>①□事業費実績 14,137 千円 (対当初予算比 75%)</p> <p>□事務費実績 6,205 千円 (対当初予算比 93%)</p> <p>■電力、水、ガスの使用量実績について毎月記録分析</p> <p>■耐震工事期間中休館だったため使用料が減少。</p> <p>■年間電気使用量 5,479 K w (対前年比 65%)</p> <p>■小破修繕の実施（再掲）</p> <p>【修繕実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館内 LED ライトへの交換 ・空調室内機ドレンポンプセンサーの交換 ・トイレ温水便座交換 ・トイレ床ワックス酸化皮膜の剥離除去作業・中庭屋根波板・貸室シンク棚交換 ・換気扇の交換 <p>【陶芸窯修繕実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常圧土練機の分解清掃 ・8 k w 電気炉ヒーター交換

イ 指定管理料のみに依存しない収支構造の検討について

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
①指定管理料のみに依存しない収入確保の検討	<p>①■自主事業の受講者を効率的に獲得し受講率を高めることにより、事業収入の増収を図る。</p> <p>■上級講座を企画検討し、利用料増収を図る。</p> <p>■陶芸センター独自グッズの開発、販売に向けて、実現の可能性を探る。</p> <p>■仕入価格値上がりに伴い、粘土1Kgあたりの利用者販売価格の見直しを検討する</p>	<p>①■季節の飾り物講座では、クリスマス ランプシェードの製作、上級講座の招待作家講座では人気女流陶芸作家故ルーシー・リーの技法を作家の小山耕一氏に再現していたとき受講率の高い講座を開講できました。</p> <p>■独自グッズは売り場や販売経路、製作コストの問題があり、次年度以降の課題となりました。</p> <p>■粘土の販売価格の見直しは行いませんでしたが、サンドペーパーを無料から有料に変更。</p>	<p>①■4か月の休館により、予算に対して、事業集入増となりませんでした。事業収入実績13,471千円(対当初予算比 72%)</p> <p>■招待作家講座 ルーシー・リーの技法 講師 小山耕一氏 24名受講 (抽選)</p> <p>■諸経費を抑制、利用者の利便性を考慮し他の材料等は価格維持に努めました。</p>

ウ 経費削減及び効率的運営努力について

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
①経費削減等効果的運営の取組	<p>①■消耗品、事務用品の節約による事務経費の削減に努める。利用者からの寄贈による古新聞・古布等を再利用する。</p> <p>■陶芸材料の輸送コスト削減の為、販売元から直接引き取り搬入し、輸送コストの削減を図る。</p> <p>■教室運営にかかる補助的作業や修繕について、出来る範囲のものは職員の自前作業により、経費抑制を図る。</p>	<p>①■効率の良いローテーションによる人件費削減と消耗品、事務用品の節約による事務経費の削減に努めました。利用者からの寄贈による古新聞・古布等を再利用し、新品の蛍光管を寄贈していただきました。</p> <p>■液化燃料を配達から直接買い入れることによる経費の削減。</p> <p>■職員の自前作業により、経費抑制を図りました。</p>	<p>①経費削減は前述のとおり。</p>

(5) P D C A サイクルの確実な運用

ア 日報及び月報の作成・管理について

[取組内容] ①日報、月報の作成と管理	[達成指標] ①■日報、月報を作成・管理する。 ■日常業務の中でP D C A サイクルを推進することにより、短いサイクルでの早い対応ができるよう、努力する。	[実施内容] ①■計画通り、日報、月報の作成と管理を行い、PDCA サイクルの推進により素早い対応をこころがけました。	[達成状況] ①■日報、月報の作成官理 ■センター利用者のアンケートの集計による対応。
------------------------	---	--	---

イ 業務計画書及び業務報告書の作成・管理について

[取組内容] ①業務計画書、業務報告書の作成と管理	[達成指標] ①■業務計画書及び業務報告書について、定められた様式に沿って作成、管理を行う。	[実施内容] ①■計画通り、業務計画書、業務報告書の作成と管理を行いました。	[達成状況] ①■業務計画書、業務報告書の作成と管理
------------------------------	---	---	-------------------------------

ウー1 業務評価（モニタリングの実施）について

[取組内容] ①モニタリングの実施による業務評価	[達成指標] ①■モニタリングにおいて、利用状況、施設管理状況、問い合わせ・苦情等、毎月の管理運営状況について報告する。	[実施内容] ①■計画通り、モニタリングの実施による業務評価を行いました。	[達成状況] ①■利用状況、施設管理状況問い合わせ・苦情等、毎月の管理運営状況を報告
-----------------------------	---	--	---

ウー2 業務評価（自己評価の実施）について

[取組内容] ①自己評価の実施による業務評価	[達成指標] ①■業務実績及び利用者の満足度や意見を基に、自己評価を行い、以降の業務改善につながるよう努める。	[実施内容] ①■計画通り、自己評価の実施による業務評価を行いました。	[達成状況] ①■業務実績及び利用者の満足度や意見を基に、自己評価を実施
---------------------------	--	--	---

ウー3 業務評価（第三者による評価の実施）について

[取組内容] ①第3者評価の実施による業務評価	[達成指標] ①■業務評価にあたり、外部評価委員会による第三者評価が実施される場合は、横浜市の指示に従い対処する。	[実施内容] ①■28年度内に、第三者評価の実施は、ありませんでした。	[達成状況] ①■28年度は実施なし
----------------------------	--	--	-----------------------

(6) その他について

ア 保険及び損害賠償の取り扱いについて

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
①保険の加入と損害賠償への対応	①■賠償責任保険、動産総合保険、レジャー・サービス費用保険に加入し、契約書および保険証書の写しを市に提出する。	①■計画通り、保険の加入により損害賠償への備えを整えました。	①■賠償責任保険、動産総合保険、レジャー・サービス費用保険に加入。

イ 関係法令の遵守

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
①法令の遵守と個人情報保護への取組 ②マイナンバー制度への取組	①■法令、条例及び規則を遵守し、利用者の個人情報の取り扱いを適正に行い、事故のないように努める。 ②■マイナンバーの個人情報漏えい防止の為、組織的・人的・物理的・技術的安全管理処置を講じる	①■計画通り、法令の遵守と個人情報保護への取り組みを行いました。	①■法令、条例及び規則の遵守 利用者の個人情報の適正な取り扱い

ウ 市及び関係機関等との連絡調整について

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
①市及び関係機関との連絡調整	①■月次モニタリングにて業務の報告、確認を行うが、重要な案件、緊急な案件については、隨時市に報告・協議し、円滑な業務遂行を目指す。	①■計画通り、市及び関係機関との連絡調整を行いました。	①■月次モニタリングでの業務の報告、確認の他、隨時市に報告、協議し、円滑な業務遂行

エ その他

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容]	[達成状況]
①情報公開への積極的取組	①■情報公開規程にのっとり、情報開示請求等に対し、適切に対応する。 ■業務計画書、業務報告書をはじめ、施設運営情報等をホームページで公開していく。	①■情報公開への積極的な取り組みを行いました。	①■施設運営情報のネットでの公開

平成28年度 「横浜市陶芸センター」 収支予算書及び報告書

(税込、単位：円)

収入の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	18,636,000	3,553,749	22,189,749	22,189,749	0	横浜市より/変更指定管理料含む
利用料金収入	4,200,000		4,200,000	2,949,700	1,250,300	貸室利用料・貸室焼成費
自主事業（指定管理料充当の自主事業）収入			0		0	
自主事業収入	18,750,000		18,750,000	13,471,125	5,278,875	自主事業講座料・自主事業焼成費、教室・貸室粘土代
雑入	650,000	0	650,000	1,337,584	△ 687,584	
印刷代	4,000		4,000	1,330	2,670	コピー代金
自動販売機手数料	136,000		136,000	118,609	17,391	自動販売機売上手数料
駐車場利用料収入			0		0	
その他	510,000		510,000	1,217,645	△ 707,645	陶芸祭売上・作品出品料・受取利息・陶芸材料売上・ルート回集古紙収入・雑
収入合計	42,236,000	3,553,749	45,789,749	39,948,158	5,841,591	

支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	11,820,000	0	11,820,000	12,951,019	△ 1,131,019	
給与・賃金	10,170,000		10,170,000	11,074,579	△ 904,579	社員2名・嘱託社員2名・パート2名・
社会保険料	930,000		930,000	1,136,085	△ 206,085	社会保険・雇用保険
通勤手当	700,000		700,000	565,890	134,110	通勤費
健康診断費・福利厚生	20,000		20,000	174,465	△ 154,465	健康診断費(協会健保)・福利厚生
労働者福祉共済掛金	0		0		0	
退職給付引当金繰入額	0		0		0	
事務費	3,614,640	0	3,614,640	3,374,544	240,096	
旅費	30,000		30,000	27,130	2,870	交通費
消耗品費	200,000		200,000	386,743	△ 186,743	ガムテープ・紙やすり・ラミネートフィルム・ポリ袋・レジロール・鉛筆・ファス用紙他・
会議賄い費	50,000		50,000	1,940	48,060	会議賄費他
印刷製本費	860,000		860,000	1,712,664	△ 852,664	講座パンフレット・チラシ・案内ハガキ・広告宣伝費
通信費	500,000		500,000	348,928	151,072	電話料金・メール便・郵便料金・切手・ハガキ代金・DM送料
使用料及び賃借料	500,330	0	500,330	343,211	157,119	
横浜市への支払分	170,000		170,000	148,284	21,716	ごみゼロルート回収費・目的外使用料(自動販売機・小道具ショーケース)
その他	330,330		330,330	194,927	135,403	コピー・機リモート保守管理費
備品購入費	500,000		500,000	100,000	400,000	収納ロッカー・温度計・壁掛け時計・パソコン部品・換気扇・釉薬掛ブー
図書購入費	70,000		70,000	69,969	31	新聞購読料・陶芸ライブラリー用陶芸図書購入費
施設賠償責任保険	14,310		14,310	14,390	△ 80	施設管理者賠償責任保険・動産総合保険・レジャーサービス費用保
職員等研修費	20,000		20,000	0	20,000	各種法令テキスト代・陶芸教材用テキスト代
振込手数料	50,000		50,000	47,088	2,912	銀行支払い振り込み手数料
リース料	600,000		600,000	322,481	277,519	電動ロクロ・小型電機窯・コピー機・印刷機リース料
手数料	220,000		220,000		220,000	ホームページドメイン管理・サーバー使用料・会計ソフトサポート料
地域協力費	0		0		0	
事業費	18,750,000	0	18,750,000	14,137,755	4,612,245	
自主事業費	16,211,000		16,211,000	12,620,915	3,590,085	講師・アドバイザー・助手業務委託費支払及び交通費
陶芸材料仕入れ	2,539,000		2,539,000	1,516,840	1,022,160	陶芸材料仕入れ
管理費	5,051,110	0	5,051,110	3,618,601	1,432,509	
光熱水費	1,980,000	0	1,980,000	1,259,299	720,701	
電気料金	1,100,000		1,100,000	809,369	290,631	三相・200V・単相・100V電気料金
ガス料金・灯油料金	380,000		380,000	183,266	196,734	プロパンガス・灯油窯用灯油代金
水道料金	500,000		500,000	266,664	233,336	上下水道料金
清掃費	2,100,000		2,100,000	1,303,047	796,953	日常清掃(毎日)・定期清掃(年1回)
修繕費	180,000		180,000	569,164	△ 389,164	蛍光灯・貸室収納シンク・屋根波板交換・温水便座交換・電気配線他
機械警備費	390,000		390,000	289,656	100,344	開館時以外常時機械警備(220日)
設備保全費	401,110	0	401,110	197,435	203,675	
空調衛生設備保守	210,000		210,000	102,060	107,940	定期保守点検(年1回)
消防設備保守	87,000		87,000	39,960	47,040	消火器更新・消防設備点検(年1回)
電気設備保守	102,600		102,600	0	102,600	電気炉・灯油窯他保守点検(年1回)電気設備取付・保守
害虫駆除清掃保守	1,510		1,510	43,200	△ 41,690	シロアリ駆除・スズメ蜂・蚊用殺虫剤・蚊取り線香
駐車場設備保全費	0		0	0	0	
その他保全費	0		0	12,215	△ 12,215	松葉清掃及び排水汚泥収納廃棄用袋・プロパンガス設備点検
共益費	0		0	0	0	
公租公課	2,500,250	0	2,500,250	2,112,710	387,540	
事業所税	0		0		0	
消費税	2,500,000		2,500,000	2,112,700	387,300	消費税
印紙税			0		0	
その他()	250		250	10	240	受取利息からの納稅分(国税・地方税・復興税)
事務経費(計算根拠を説明欄に記載)	500,000	0	500,000	718,441	△ 218,441	
本部分	0		0	100,000	△ 100,000	本社労務管理等経費
当該施設分	500,000		500,000	618,441	△ 118,441	講師・審査員謝礼・陶芸祭用各種備品他・事務用品費・雑費
ニーズ対応費			0		0	
支出合計	42,236,000	0	42,236,000	36,913,070	5,322,930	
差引	0	3,553,749	3,553,749	3,035,088	518,661	

【別紙】平成28年度自主事業一覧

1 陶芸の普及と市民の作陶技術向上の支援

No	事業タイトル	主催 共催	会場	事業内容	実施時期 (※「取り消し 線」:工事実施決定 後、開催できなかつ た講座)	当初入場 見込み	入場 目標 (※工事実 施決定後の 数値)	入場者数
1	一日体験教室 □手びねり・絵付け □季節の飾り物 □電動ろくろ	主催	講座用教 室	初めて陶芸を楽しむ方のための教室。当日飛び込みの参加にも対応。 □手びねり年11回11日開催 □季節の飾り物 年4回4日間開催 □電動ロクロ年10回10日間開催	4月17, 24日 5月15, 22日 6月12, 19日 7月3, 10日 9月10, 17, 24日 10月8, 22日 11月12, 19, 26日 12月11, 18, 25日 1月 2月11, 18, 25日 3月11, 18, 25日	手びねり 180人 季節の焼 物 40人 電動ロクロ 130人	手びねり 96人 季節の焼 物 20人 電動ロクロ 78人	手びねり 134人 季節の焼 物 27人 電動ロクロ 79人
2	親子陶芸教室	主催	講座用教 室	親子で一緒に作陶し、手びねりによる器をそれぞれ1個制作。 年間17回、17日開催	5月3, 4, 5, 日 7月 18, 19, 20, 21, 22, 24, 25, 26, 27 , 28, 30, 31日 8月1, 2日	650人 (350人)	650人 (350人)	552人
3	陶芸祭手びねり 体験教室	主催	講座用教 室及び貸 室	陶芸祭期間中開催。どなたでも参加可能。 年間1回、4日開催	11月3～6日	50人	50人	148人
4	陶芸祭ロクロ体 験教室	主催	講座用教 室及び貸 室	陶芸祭期間中開催。小学生高学年以上対象。 年間1回、4日開催	11月3～6日	50人	50人	
5	陶芸祭楽焼	主催	前庭	素焼作品に色を塗り、1時間程度で焼成。 年間1回、4日開催	11月3～6日	40人	40人	
6	手びねり初級教 室	主催	講座用教 室	初心者対象。基本的技術を学び、成形の楽しさを体験する。 年間3回、24日開催	4月1日～5月27 日(8日間) 6月2日～8月4日 (8日間) 11月11日～1月 13日(8日間)	400人	266人	168人
7	手びねり中級教 室	主催	講座用教 室	陶芸経験者対象。蓋物、注ぎ口のあるものなどの制作や装飾技法を学ぶ。 年間3回、24日開催	6月3日～8月5日 (8日間) 9月1日～10月27 日(8日間) 1月20日～3月17 日(8日間)	500人	332人	311人
8	電動ロクロ初級 教室	主催	講座用教 室	初心者から土練りができる方対象。粘土引き上げを習得し、基本的な筒状のものを制作。 年間3回、21日開催	4月2日～5月21 日(7日間) 9月5日～10月24 日(7日間) 12月7日～1月25 日(7日間)	350人	232人	303人
9	電動ロクロ中級 教室	主催	講座用教 室	簡単なロクロ引きができる方対象。袋物、蓋物等より高度なロクロ技術を学ぶ。 年間3回、21日開催	5月28日～7月16 日(7日間) 10月31日～12月 19日(7日間) 2月1日～3月22 日(7日間)	350人	116人	126人

10	自由作陶教室	主催	自由作陶教室	決められたカリキュラムはなく、講師の指導を受けながら、自分のペースで作陶が楽しめる。1週1回半日単位で12回のコース。 年間350日開催	4月1日～3月31日 ※11月15日までとする。	7,700人	4,853人	4,553人
11	第2自由作陶教室	主催	講座用教室	講座内容は自由作陶教室と同じ。講座用教室を利用し、火曜日のみ開催。 年間46日開催	4月5日～3月28日 ※11月15日までとする。	1,300人	819人	785人

2 市民の主体的な作陶活動の支援

1	電動クロロ水挽き徹底教室	主催	講座用教室	基本的な形の水挽きからより高度な技術まで、各自のレベルに沿って徹底的に練習するコース。 年間2回、8日開催	5月9日～5月30日(4日間) 3月9日～3月30日(4日間)	90人	45人	58人
2	絵付け教室	主催	講座用教室	絵付けの入門コース。上絵付け、下絵付けなどそれぞれテーマを決めて開催。 年間2回、6日開催	6月22日～7月13日(3日間) 2月13日～3月6日(3日間)	60人	30人	32人
3	特定のやきもの作り教室	主催	講座用教室	土鍋、備前焼、サヤ鉢焼成、楽焼などそれぞれ特定のやきもののテーマを決め開催。 年間3回、12日開催	4月14日～5月12日(4日間) 9月14日～10月12日(4日間) 2月19日～3月19日(4日間)	360人	240人	91人
4	招待作家特別講座	主催	講座用教室	特殊な技法や講義等、普段習う事の出来ない講座	6月15日(水) 10月20日(木)	48人	24人	24人
5	還元焼成講座	主催	—	貸室や自由作陶教室で制作した作品の還元焼成知識習得と還元焼成体験。 隨時開催	隨時	800人	400人	524人
6	大物焼成講座	主催	—	貸室や自由作陶教室で制作した大物作品を、限定定員毎月2名で焼成。 隨時開催	毎月2回	24人	12人	12人

3 市内の公益的作陶活動に対する支援

1	陶芸指導者研修講座	主催	講座用教室	学校や福祉施設などの陶芸指導者の方を支援するための陶芸基礎講座。 年間1回、1日開催	8月10日	20人	20人	12人
2	団体教室	主催	講座用教室	各団体の要望に応じ個別教室を設定して、陶芸に親しんでもらう教室。 隨時開催	随时	485人	240人	177人